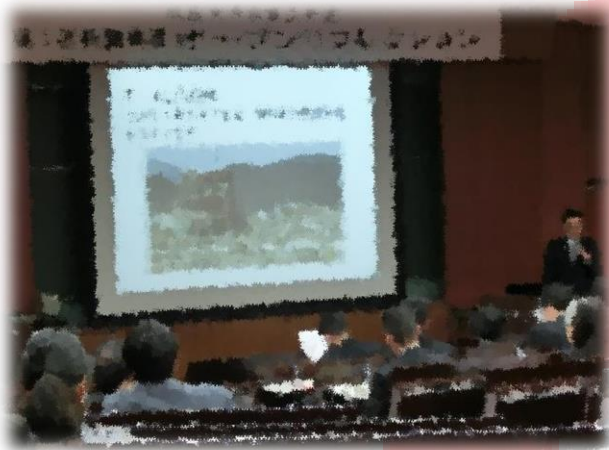


2017年度

学校マネジメントコース
修了後計画書

カリキュラム・授業開発コース
発達教育・特別支援教育コース

教職実践プロジェクトⅡ
教職実践インターンシップⅡ
計画書



秋田大学大学院教育学研究科
教職実践専攻(教職大学院)

2017年4月

次年度計画書

学校マネジメントコース

提出日 2017 年 3 月 17 日

氏名	浅野 博之	学籍番号	2516301
○教育実践研究報告書のテーマ			
学校組織マネジメント研修の有効性に関する一考察 －これからの学校に求められる組織力の構築－			
① 報告書の継続に関わる計画・・・教育研究発表会まで			
<ul style="list-style-type: none"> ・SWOT 分析や前年度の反省から改善点を共有し、改善を図る。 ・改善点を精査し、業務の見直しを図る。 			
②①以外の学校マネジメント力の向上に関わる計画：「学校の共有ビジョンの形成と具体化」			
<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標および重点項目を、恒常的に教職員・生徒・保護者・地域へ発信する。 ・学校教育目標を具現化するための具体的な目標や方策を、分掌および個人評価に取り入れる。 			
③同上：「教育活動の質を高めるための協力体制と風土づくり」			
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に関する情報を共有し、問題行動の早期発見と組織的な生徒指導を推進する ・管理職へ相談するよう促し、個人で抱え込まない体制づくりを進める。 			
④同上：「教職員の職能開発を支える協力体制と風土づくり」			
<ul style="list-style-type: none"> ・センター研修や自主研修の活用を積極的に促し、仲間で共有する学び合いの風土づくりを進める。 ・校内研究授業については、改善テーマを明確にし、テーマに沿った協議を図る。 			
⑤同上：「諸資源の効果的な活用」			
<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動の質的向上を図るため、PDCA サイクルによる検証を十分に行い実態把握に努める。 ・学校ビジョン達成のための人的・物的・財政的・情動的な資源を効果的・効率的に活用し運用する。 			
⑥同上：「家庭・地域社会との協働・連携」			
<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育目標や教育活動の様子を、学校通信やクラス通信などを通して、積極的に発信する。 ・PTA活動や地域行事へ積極的に関わることで、信頼関係の構築を図る。 			
⑦同上：「倫理規範とリーダーシップ」			
<ul style="list-style-type: none"> ・管理職として、高い使命感、誠実、公正、公平の意識をもって職務にあたる。 ・法令遵守についての意識を高めるため、研修会や声かけなどを行い喚起する。 			
⑧同上：「学校をとりまく社会的・文化的要因の理解」			
<ul style="list-style-type: none"> ・国や県に関わる社会・経済・文化的動向を理解し学校経営に生かすよう努める。 ・関係法令等に基づいて学校運営を考える。 			
指導教員 (主)	神居 隆	指導教員 (副)	佐藤 修司

次年度計画書

学校マネジメントコース

提出日 平成 29 年 3 月 17 日

氏名	伊藤 智	学籍番号	2516302
○教育実践研究報告書のテーマ			
東日本大震災を契機とした自然災害への危機管理に関する一考察 ーマネジメントの手法を取り入れた安全教育と安全管理ー			
①報告書の継続に関わる計画・・・教育研究発表会まで			
学校、子ども、地域が抱えている課題の解決が最優先である。そこで、勤務校及び地域の実態を把握し課題を探る。そのための解決策として、学校経営改善プランを作成し、1学期末に職員への提案、検討、2学期以降、検証等を行っていく。			
②①以外の学校マネジメント力の向上に関わる計画：「学校の共有ビジョンの形成と具体化」			
校長がもつ学校ビジョンを理解し、教職員、児童、保護者、地域住民に理解され具現化されるように働きかけていく。(カリキュラム・校内研修等の計画、情報の発信と収集、学校評価の活用など)			
③同上：「教育活動の質を高めるための協力体制と風土づくり」			
職員がやりがいをもって職務に専念できる環境づくりに努める。多忙化解消に向けた業務改善等に取り組むことで、教職員のモチベーションを高め、チームとして協力し合う学校風土を作っていく。			
④同上：「教職員の職能開発を支える協力体制と風土づくり」			
次期学習指導要領の改訂、アクティブ・ラーニング、カリキュラム・マネジメント等、常に最新の動向に目を向け、絶えず学び続ける教師集団の育成に努める。(職員研修会・授業研究会・授業を見合う会等による相互交流、若手教員・ミドルリーダーの育成、ベテラン教員による授業力の継承など)			
⑤同上：「諸資源の効果的な活用」			
学校の共有ビジョンを実現するために必要な諸資源を考え、学校外部に働きかけていく。そのために、PTA、地域住民、企業、地域学校協働本部等とのネットワーク化を図っていく。			
⑥同上：「家庭・地域社会との協働・連携」			
共有ビジョンを理解してもらえるように、学校報やホームページ等で情報を発信したり、学校評議員制を活用し協力体制を強化したりする。また、研究テーマに関連して、災害時には地域住民の避難場所になることを考えて、行政や町内会との事前の協議を検討する。			
⑦同上：「倫理規範とリーダーシップ」			
自ら職業倫理の模範を示すとともに、授業及び問題行動等における適切な助言、職員への配慮等、職員、保護者、地域から信頼される管理職になれるように自己の省察と職能成長に努める。			
⑧同上：「学校をとりまく社会的・文化的要因の理解」			
地方自治体の社会・経済・政治・文化的状況の理解に努め、学校と地域が相互に協力し、地域全体で学校教育を展開していく「地域とともにある学校」を目指し、体制を整えていく。			
指導教員 (主)	佐藤 修司	指導教員 (副)	廣嶋 徹

次年度計画書

学校マネジメントコース

提出日 2017 年 3 月 17 日

氏名	木 村 司	学籍番号	2516303
○教育実践研究報告書のテーマ			
<p style="text-align: center;">学校組織マネジメントにおける秋田型評価システムに関する一考察 —企業経営理論との対比を通して—</p>			
② 報告書の継続に関わる計画・・・教育研究発表会まで			
○4～5月 秋田型評価システムとしての学校評価と人事評価について、勤務校での在り方についての計画			
○6～12月 計画に基づいての実践			
○12～2月 教育研究発表会に向けてのまとめ			
②①以外の学校マネジメント力の向上に関わる計画：「学校の共有ビジョンの形成と具体化」			
○機会を捉えて学校の実態（児童生徒の学習・生活、保護者・地域からの期待、地域社会の環境、これまでの経緯など）に関する情報を収集し、現状を把握する。			
○勤務校で実践できることについて検討する。			
○教育実践研究報告書で提起した学校の共有ビジョンの形成に向けた方策を修正する。			
○学校の共有ビジョンを実現するための校内研修等、修正した方策を実践する。			
○学校の共有ビジョンを絶えず検証し、見直しを図る。			
③同上：「教育活動の質を高めるための協力体制と風土づくり」			
○学校にとって適切な教科指導及び生徒指導等を実現するための適切なカリキュラムを実践し、教職員が協力してそれを実施する体制、風土づくりを行う。			
○あらゆる児童生徒が、高い学習意欲をもち、安心して学ぶことができる環境を校内に形成する。			
○より質の高い教育を実現するために、絶えず研修に取り組むことができるようにする。			
④同上：「教職員の職能開発を支える協力体制と風土づくり」			
○教職員一人一人のキャリア、資質・能力を的確に把握し、各自の課題意識や将来展望等について十分理解し、支援する。			
○学校の共有ビジョンの実現のために、一人一人の資質・能力の向上と学校としての教育課題の解決を促すための研修計画を立案する。			
○教育実践の実態を相互交流し合い、協力して省察することができるような職員集団を形成する。			
○教職員の間、協働、信頼、公正、公平の意識が定着するような風土づくりをする。			
⑤同上：「諸資源の効果的な活用」			
○学校としてのビジョン共有状況、教育活動の質及び教職員の資質・能力について、様々な方法を用いて絶えず実態を把握する。			
○学校の共有ビジョンを実現するために、どのような人的・物的・財政的・情動的な資源が必要かを考え、必要に応じて学校外部に働きかける。			
○諸資源を生かしながら、教育活動の質的改善及び教職員の資質・能力の向上等の諸活動が計画的・効果的に行われるように、計画（Plan）・実施（Do）・評価（Check）・改善（Action）のサイクルで組織全体の動きをつくる。			
○教職員と児童生徒が安全な環境の下で教育・学習活動に取り組めるように、危機管理のための組織			

的な活動を促す。			
⑥同上：「家庭・地域社会との協働・連携」			
<p>○学校における教育活動は、家庭・地域との信頼・協働関係のもとでより効果的に行うことができることを十分に理解する。</p> <p>○様々な情報資源を活用して、自校の児童生徒の家庭及び地域社会環境を把握し理解する。</p> <p>○家庭及び地域社会の様々な立場の人や機関等が自分の学校に寄せる関心・期待の内容を把握し、それら教育活動の質的改善に生かすよう教職員をリードする。</p> <p>○様々な方法を用いて、学校の共有ビジョンと教育活動の実態等についての情報を発信し、家庭・地域社会からの信頼感と協働・連携意識を獲得するよう教職員をリードする。</p>			
⑦同上：「倫理規範とリーダーシップ」			
<p>○高い使命感と誠実、公正、公平の意識をもって職務にあたる。</p> <p>○児童生徒の最善の利益を優先しながら、自身の意思をあらゆる立場の人に対して説得力をもって明確に伝える。</p> <p>○多様な価値観、思想、文化などの存在を認める。</p> <p>○法令順守についての高い意識を自らがもつとともに、教職員の間でそれを定着させる。</p>			
⑧同上：「学校をとりまく社会的・文化的要因の理解」			
<p>○学校教育と社会が相互に影響し合う存在であることを理解し、広い視野の下で、学校を取り巻く社会的・文化要因を把握する。</p> <p>○自校が存在する地方自治体の社会・経済・政治・文化的状況を十分に理解し、それらを学校のビジョン形成に生かす。</p> <p>○国内外の教育思想・考え方について理解し、内面化するとともに、それらを参照しながら、自校の教育のあり方を考える。</p>			
指導教員 (主)	廣 嶋 徹	指導教員 (副)	原 義 彦

次年度計画書

学校マネジメントコース

提出日 平成 29 年 3 月 17 日

氏名	佐藤 孝成	学籍番号	2516304
○教育実践研究報告書のテーマ			
<p style="text-align: center;">重度重複障害児童生徒が在籍する学校の施設設備の安全管理と危機意識向上 -特別支援学校におけるリスク・マネジメントの観点から-</p>			
①報告書の継続に関わる計画・・・教育研究発表会まで			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 重度重複障害児童生徒が在籍する，組織的な安全管理，危機意識の向上。 ・ 安全点検の見直しと，安全点検表の改善・工夫。 			
②①以外の学校マネジメント力の向上に関わる計画：「学校の共有ビジョンの形成と具体化」			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の特徴，地域性等を含めた学校課題や教育課題の解決に向けた具体策，適切な情報提供，改善案を校長に提言する。 			
③同上：「教育活動の質を高めるための協力体制と風土づくり」			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒が安心して高い意欲をもって学ぶことができる環境を形成するように教職員をリードする。 ・ 「クモの巣型」組織を構成している教員同士の協力体制を築くため，多方向のコミュニケーション推進する。 			
④同上：「教職員の職能開発を支える協力体制と風土づくり」			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 各教職員のキャリア，職務能力，将来展望等の把握に努める。 ・ 職能開発の視点に立ち，仕事ぶりを評価し，賞賛・承認，適切な指導をし，専門性を高める。 			
⑤同上：「諸資源の効果的な活用」			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の共有ビジョン実現に必要な諸資源の把握と調達・調整を行う。 ・ P D C A サイクルに基づいて組織全体の動きを創る。 			
⑥同上：「家庭・地域社会との協働・連携」			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校のビジョン・実態に関する情報発信と信頼感，協働・連携意識を獲得するように努める。 ・ 学校に対する関心・期待の把握と教育活動の改善に生かすようリードする。 			
⑦同上：「倫理規範とリーダーシップ」			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己省察と自らの職能成長に努める。 ・ 法令遵守についての意識をもつとともに，教職員にそれを定着させる。 			
⑧同上：「学校をとりまく社会的・文化的要因の理解」			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 国内外の社会・経済・文化的動向の理解と学校教育のあり方について，自らの考えを表現できる。 ・ 地方自治体の社会・経済・政治・文化的状況の理解とそれらを学校ビジョン形成に生かすことができる。 			
指導教員 (主)	神居 隆	指導教員 (副)	佐藤 修司

次年度計画書

カリキュラム・授業開発コース

提出日 平成 29 年 3 月 23 日

氏名	富樫 朋哉	学籍番号	2516409
○教育実践研究報告書の仮のテーマ			
主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善 —理科の授業の捉え直しによる指導の充実—			
①報告書の完成に関わる計画・・・教育実践研究報告書完成まで			
<p>研究テーマである3つの視点での授業改善を土台に授業を重ねる。⇒ 児童の変容を 授業構想と評価方法は児童の実態に即して修正を加えながら進める。 分析・考察</p>			
<p>【構想】</p> <p>①アクティブ・ラーニングの視点を実現させる支援の明確化 アクティブ・ラーニングの3つの視点からの支援例 (森田『アクティブ・ラーニングの授業展開 小学校理科』) を活用</p> <p>②支援を具現化する手立て</p> <p>③発問・教材教具の準備</p>			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p style="text-align: center;">授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実感の伴った活動 ・授業のねらいや児童の実態に応じた活動 </div>			
<p>【実践】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当学年の授業 研究協力校での実践単元「明かりをつけよう（三年）」「物のとけ方（五年）」 <p>【分析・評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの蓄積→「今日のゲット」「友だちのナイス」とし、自己評価の観点と相互評価の観点から記述を促す。児童の変容を分析し授業改善の判断材料として蓄積していく。 ・単元テスト学習状況調査の過去問の活用 →記述内容に着目する。例えば3択問題において正答以外の2つをなぜ外したか書き込ませるなど、学習した内容についてどのくらい表現できるかを評価する。 ・アンケート①→大仙市で行っている理科アンケート調査や研究協力校で実施したアンケート調査を定期的に行い、児童の理科に対する意識の変化を分析する。 ・アンケート②→単元終了後に「理科の「め」アンケート調査（仮名称）」を行い、学習内容と普段の生活を結びつける手立てとする。始めは戸惑うことも予想されるが、日常の事象に目を向けるきっかけとし、少しずつ書けるようになることを期待する。 ・ICレコーダーの活用→構想①において「教師と子供、子供同士の対話の場を意図的に設定する」など対話的な学びの視点で支援例を選択した場合は、ICレコーダーを用いて発言の様子を録音する。児童の発言を分析することで、対話的な学びによる児童の変容を探る。 			
②①以外の学校マネジメント・協働力の向上に関わる計画			
<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営の視点から担外教員の役割を考え、円滑な組織運営を心がける。 ・理科研究発表会に向けた取り組みの推進→夏休み中に理科専科担当が手厚い支援と助言を行い、毎年多数の児童が参加している。⇒継続 ・理科便りの発行→授業の様子（ゲストティーチャー）や理科研究発表会に参加した児童の紹介などおたよりを定期的に発行している。⇒継続 			
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block;"> <p style="text-align: center;">教師力充実実習 講話・協議 →リフレクション レポート作成</p> </div>			
③①以外のカリキュラム・授業デザイン力の向上に関わる計画			
<ul style="list-style-type: none"> ・大曲小の研究教科・研究主題と本研究テーマ「主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善」を照らし合わせ、結び付く部分について機を捉え発信する。 			
④①以上の成長発達サポートの力の向上に関わる計画			
<ul style="list-style-type: none"> ・支援を要する児童の把握と学級担任との連携 →大曲小には、10名を超える支援員が勤務している。支援を要する児童と関わる機会が予想される。担任と情報共有を密にし、安心して理科の授業に臨める条件をそろえることを心がける。また理科の授業でのがんばりが学級にも反映されるような情報共有の時間を作る。 			
指導教員 (主)	廣嶋 徹	指導教員 (副)	林 信太郎

裏テーマ・・・「曲小 PRIDE」を語るなら語れるだけの職員集団形成とその一員に！

教職実践実習計画

平成 29 年 4 月 5 日

実習校 大仙市立大曲小学校
 学籍番号 2516409 氏名 富樫 朋哉

〈校内実習〉 A 教師力充実実習 B 課題研究実習

担当学年：第六学年 5 学級（松・竹・梅・桜・桃）

実施日	日にち（火）	内容	校内行事	備考
	4月 4日		新年度準備	
	11日		身体計測 研究部会	
	18日		全国テスト歯科検診	PTA（17日）
①	25日	A 学校経営・教育課程 講話→協議	児童大会 歯科検診	
	5月 2日		仙教研春季大会	
	9日			運動会（13日）
②	18日（木）	B 6年梅組 *大学訪問 単元「動物のからだのはたらき」		
③	23日	A 研究・研修 講話→協議		
④	25日（木）	B 6年梅組 単元「動物のからだのはたらき」		
	30日		宿泊体験（5年）	
⑤	6月 6日	B 6年桃組 桜組 *大学訪問 単元「動物のからだのはたらき」		
⑥	13日	A 生徒指導（児童理解）・特別支援 講話→協議		修学旅行 14～15日
⑦	20日	B 6年桃組 桜組 *大学訪問 単元「植物のからだのはたらき」		
⑧	29日（木）	B 6年梅組 単元「植物のからだのはたらき」	芸術鑑賞	
⑨	7月 4日	B 6年桃組 桜組 *大学訪問 単元「生き物のくらしと環境」		
	11日			PTA（13日）
⑩	18日	B 6年桃組 桜組 単元「生き物のくらしと環境」		
	25日		夏季休業(22日～)	
⑪	8月 1日	A 勤務校に即した課題 講話→協議		
	8日			
	15日		お盆	
	22日		前期後半開始(23日)	大曲花火（26日）

⑫	29日	B 6年桃組 桜組 *大学訪問 単元「考え中」		
	9月 5日			文化祭(10日)
	12日		振替休業日	
⑬	19日	B 6年桃組 桜組 *大学訪問 単元「太陽と月の形」		ウォークラリー (28日)
⑭	26日	B 6年桃組 桜組 単元「太陽と月の形」		
	10月 3日			前期終了(6日)
	10日		秋季休業	後期開始(12日)
⑮	17日	A 学校評価 分析→協議		
⑯	19日(木)	B 6年梅組 *大学訪問 単元「大地のつくり」		
	24日		仙教研春季大会	開校記念日 (25日)
⑰	31日	B 6年桃組 桜組 *大学訪問 単元「てこのはたらき」		
	11月 7日			
⑱	14日	B 6年桃組 桜組 *大学訪問 単元「てこのはたらき」		
⑲	21日	B 6年桃組 桜組 単元「水溶液の性質とはたらき」		
⑳	28日	B 6年桃組 桜組 *大学訪問 単元「水溶液の性質とはたらき」		
	12月 5日			状況調査(6日)
予備日	12日			PTA(7日)
予備日	19日			

〈校外実習〉

実施日	日にち	内容	校内行事	備考
①	4月20日(木)	全県指導主事等連絡協議会		
②	4月21日(金)	全県指導主事等連絡協議会	委員会	
③	5月22日(月)	CT連絡協議会	職員会議	
④	6月 9日(金)	附属小公開研究会		
⑤	9月27日(水)	指導力向上研修会 理科(県南)	こころの劇場(6年)	
⑥	11月17日(金) 18日(土)	学力向上フォーラム(秋田市) 兼 次世代型教育推進セミナー		
⑦⑧⑨ ⑩		指導主事同行研修 教育専門監とのTT授業(1~2回) 小・中・高連携実習(近隣校でTT授業)		

次年度計画書

カリキュラム・授業開発コース

提出日 平成29年4月10日

氏名	佐々木勝利	学籍番号	2516404
○教育実践研究報告書の仮テーマと研究の目的			
<p>学校評価とカリキュラム・マネジメントに関する一考察 —「カリキュラムマネジメントアンケート」による学校改善の可能性—</p> <p>1年次は学校評価とCMAの関係性を検討し、協力校へ学校改善を促進する方策を提案した。2年次は附属中学校の現状を分析するとともに、他校との比較検討を行い、CMAを活用して学校改善の方策を立て、実践することを目的とする。</p>			
①報告書の完成に関わる計画			
<p>P</p> <ul style="list-style-type: none"> 3月 <ul style="list-style-type: none"> 事前調査(附属中) CMA実施 4月, 5月 <ul style="list-style-type: none"> 分析Ⅰ 質的調査の準備(質問項目の設定) 分掌運営計画作成 評価項目の設定, 評価計画の立案 <p>D</p> <ul style="list-style-type: none"> 6月～7月初旬 <ul style="list-style-type: none"> 質的調査 分掌での実践活動 文献研究 <p>C</p> <ul style="list-style-type: none"> 7月中旬～8月 <ul style="list-style-type: none"> 中間評価 分析Ⅱ 岩見三内小・中との比較 CMA項目の精選, 二段階調査項目の設定 文献研究 実践研究報告書の作成 (附属小等との比較) <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> 9月～10月 <ul style="list-style-type: none"> 質的調査 11月～12月 <ul style="list-style-type: none"> 評価 分析Ⅲ 実践研究報告書の作成 抄録の作成 プレゼン資料作成 1月～3月 <ul style="list-style-type: none"> ブラッシュアップ 発表 自校への提案 <p>リフレクション</p>			
<p>※関連事項</p> <p>4月, 12月・・・○全県指導主事等連絡協議会, 5月～・・・○指導主事同行研修(南教育事務所, 大仙市教育員会) ○次世代型教育実践フィールド校研修</p>			
②①以外の学校マネジメント・協働力の向上に関わる計画			
<p>研究副主任, 第一学年副主任(ミドルリーダー)の立場で「ミドル・アップダウン・マネジメント」を稼働させ、同僚と共に育つ環境の醸成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業研究, 学年組織に関する現状分析を行う。(校内実習) ※研究主任と連携 構成員の認識の変容を促す学び方・考え方を整理し、行動の変容と組織の変容につながる実践を行う。(校内実習) 			
③①以外のカリキュラム・授業デザイン力の向上に関わる計画			
<p>附属中の「協働的課題(問題)解決学習のプロセス」と秋田の「探究型授業スタイル」, 「主体的・対話的で深い学び」の関係性を検討し、保健体育の授業改善を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 公開研究会等に向けての計画・立案, 事前検討会, 研究授業, リフレクション(校内実習) 次世代型教育実践フィールド校校内研修会への参加・分析・聞き取り調査(特別実習) 			
④①以外の成長発達サポート力の向上に関わる計画			
<p>所属校で行われている生徒指導について現状分析を行い、理論と関連付けて実践的アプローチを試みる。附属中の課題に即して実践的指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 附属中の実態把握と指導(校内実習) ※前生徒指導主事との検討会含む 啓発資料の作成, 配布(校内実習) 			
指導教員 (主)	長瀬達也	指導教員 (副)	田仲誠祐

教職実践実習計画

平成 29 年 4 月 10 日

実習校 秋田大学教育文化学部附属中学校

学籍番号 2516404

氏名 佐々木勝利

①研究に関すること ②学校マネジメント・協働力に関すること ③カリキュラム・授業デザイン力に関すること ④成長発達・サポート力に関すること

回	月	日	曜日	学校・学級の状況（学校行事等）	校内 実習	特別 実習	実習計画
①	4	11	火	I 期時間割開始日	○		<ul style="list-style-type: none"> ・①校長等講話 ・①CMA 分析 ・③に関する実態調査 ・③授業研究, 検討会
②	4	18	火	全国学力・学習状況調査	○		<ul style="list-style-type: none"> ・①質的調査準備 ・③授業研究, 検討会
③	4	20	木	2・3 年学級写真, 職員写真撮影 P T A 授業参観・総会等		○	<ul style="list-style-type: none"> ・①②全県指導主事連絡協議会
④	4	21	金	公開運営部会		○	<ul style="list-style-type: none"> ・①②全県指導主事連絡協議会
⑤	5	2	火	生徒会各委員会④	○		<ul style="list-style-type: none"> ・①質的調査準備 ・③授業研究, 検討会
⑥	5	9	火	3 年実力テスト① 内科検診（2 年） 第 1 回授業力向上推進協議会	○		<ul style="list-style-type: none"> ・①評価計画の立案 ・①評価項目の設定 ・③授業研究, 検討会
⑦	5	16	火	※水曜授業 耳鼻科検診 指導案事前検討会	○		<ul style="list-style-type: none"> ・③指導案事前検討会 ・③改善案作成
⑧	5	23	火	内科検診（3 年） P T A 委員会（公開準備） P T A 常任委員会①	○		<ul style="list-style-type: none"> ・5 / 2, 9 の ブラッシュアップ ・③授業研究, 検討会
⑨	5	30	火	内科検診（1 年） 市生徒指導連絡協議会②	○		<ul style="list-style-type: none"> ・③事前授業, 検討会
⑩	6	2	金	公開研究会	○		<ul style="list-style-type: none"> ・③研究授業, 研究協議会
⑪	6	6	火	生徒会各員会⑤ 教職実践インターンシップ①	○		<ul style="list-style-type: none"> ・③研究授業分析 ・③授業研究, 検討会
⑫	6	13	火	一般応援ミーティング 教職実践インターンシップ②	○		<ul style="list-style-type: none"> ・①質的調査 I ・③授業研究, 検討会
⑬	6	20	火		○		<ul style="list-style-type: none"> ・①質的調査 II ・③授業研究, 検討会
⑭	6	27	火	市生徒指導連絡協議会③	○		<ul style="list-style-type: none"> ・④前生徒指導主事との検討会 ・③授業研究, 検討会
⑮	7	4	火	3 年実力テスト	○		<ul style="list-style-type: none"> ・④前生徒指導主事との検討会 ・③授業研究, 検討会
⑯	7	18	火		○		<ul style="list-style-type: none"> ・①中間評価・分析 II ・③授業研究, 検討会
	夏季休業中				○		<ul style="list-style-type: none"> ・①岩見三内小・中との比較 ・①CMA 項目の精選 ・①二段階調査項目の設定など

⑰	9	5	火	全校合唱練習	○	・①質的調査・分析 ・③授業研究, 検討会
⑱	9	12	火	全校合唱練習	○	・③授業研究, 検討会
⑲	9	19	火	生徒会各員会⑧	○	・③授業研究, 検討会
⑳	9	26	火	教職実践インターンシップ③	○	・③授業研究, 検討会
㉑	10	3	火	3年実力テスト④ 教職実践インターンシップ⑥	○	・④前生徒指導主事との検討会
㉒	10	17	火	副免教育実習(～10/31)	○	・④啓発資料の作成 ・③授業研究, 検討会
㉓	10	24	火	生徒会各員会③ 中学生サミット10月サミット	○	・①質的調査・分析 ・③授業研究, 検討会
㉔	10	30	月	生徒大会	○	・キャリア教育実践研究協議会 (キャリア主任との検討会)
㉕	10	31	火	副免実習最終日	○	・附小文科省指定公開研 (研究主任との検討会) ・③授業研究, 検討会
㉖	11	2	木	秋季授業研究会	○	・②実践のまとめ ・③授業研究, 検討会
㉗	11	7	火	附幼公開研	○	・②実践のまとめ ・③授業研究, 検討会
㉘	11	14	火	水曜授業 3年進路PTA 教職実践インターンシップ⑧	○	・①評価, 分析Ⅲ ・③授業研究, 検討会
㉙	11	17	金	定期テストⅡ	○	・学力向上フォーラム (研究主任との検討会)
㉚	11	18	土		○	・学力向上フォーラム (研究主任との検討会)
㉛	11	21	火	教職実践インターンシップ⑨	○	・①評価, 分析Ⅲ ・③授業研究, 検討会
㉜	11	28	火	市生徒指導連絡協議会⑥ 教職実践インターンシップ⑩	○	・①評価, 分析Ⅲ ・③授業研究, 検討会
㉝	12	15	金		○	・全県指導主事等連絡協議会
㉞					○	次世代型教育実践フィールド校 校内研修会(西目小, 中学校)
㉟					○	南教育事務所指導主事学校訪問 (保健体育, 道徳, 特別活動)
㊱					○	大仙市教育委員会指導主事学校 訪問(保健体育, 道徳, 特別活 動)
㊲					○	(文部科学省 連絡協議会)
㊳					○	岩見三内小・中学校計画訪問, 校内研究会

次年度計画書

カリキュラム・授業開発コース

提出日 平成29年3月27日

氏名	三浦益子	学籍番号	2516412		
○教育実践研究報告書の仮テーマ					
主体的・対話的で深い学びを実現する授業実践 －高等学校「生物基礎」の指導を例として－					
①報告書の完成に関わる計画・・・教育実践研究報告書完成まで					
<研究目的> 高等学校の「生物基礎」の授業において、「主体的・対話的で深い学び」を促す方略を適切に導入することで学びの質を高め、「学びに向かう力・人間性」「思考力・判断力・表現力」等を育成する。 <研究計画> ○実態調査（4月） ○ファシリテーション能力，科学の考え方等育成のための具体的方略の検討・決定（4月，5月） ○単元計画作成・再検討（4月，8月），学習指導案作成（6月，9月，11月） ○研究授業実施（6月，9月，11月），検証結果の分析（7月，10月，12月） ○研究のまとめ，教育実践研究報告書作成，抄録作成，パワーポイント作成（12月，1月，2月） ○教育実践研究報告書完成（3月）					
②①以外の学校マネジメント・協働力の向上に関わる計画					
○学校・学年の経営と運営について ○組織的・系統的なキャリア教育について ○授業力の継承に向けた取組みについて					
③①以外のカリキュラム・授業デザイン力の向上に関わる計画					
○適正な教育課程の作成について ○中学校理科C Tの授業デザインについて ○新学習指導要領の実施に向けて					
④①以外の成長発達サポート力の向上に関わる計画					
○発達障害のある生徒の指導について ○通級指導について					
指導教員 (主)	古内 一樹	指導教員 (副)	林 信太郎	協力教員	川村 教一

教職実践実習計画（案）

平成29年3月27日
 実習校 秋田県立能代松陽高等学校
 学籍番号 2516412 氏名 三浦益子

A・・・課題研究実習, B・・・教師力充実実習, C・・・特別実習

	月	日	曜日	学校・学級の状況 (学校行事)	校内	校外	実習計画
①	4	11	火	PTA監査	1.0		A 授業実習 B 校長講話（学校経営の方針、校務分掌の適正な配置について等）
②	4	13	木	整容再指導① 心電図検査 主任連絡会	1.0		A 授業実習 B 主任連絡会参加：学校運営の実際についての意見交換
③	4	18	火		1.0		A 授業実習 A アンケート調査等の考察
④	4	20	木	議案書審議 定例職員会議		1.0	C 全県指導主事等連絡協議会
⑤	4	21	金	結核健診		1.0	C 全県指導主事等連絡協議会
⑥	4	26	水	眼科検診		1.0	C 通級指導教室担当者連絡協議会
⑦	5	9	火		1.0		A 授業実習 A 研究方法の再検討
⑧	5	17	水	中間考査 尿検査	1.0		A 授業実習 B 教育課程についての意見交換
⑨	5	18	木	中間考査	1.0		A 授業実習 B 学年経営と運営についての意見交換
⑩	5	22	月	教育実習 定例職員会議		1.0	C C T 連絡協議会
⑪	6	2	金	全県総体 実用英語検定1次		1.0	C 秋田大学附属中学校公開研究協議会
⑫	6	6	火		1.0		A 授業実習 A 研究授業に向けての検討
⑬	6	13	火	内科検診 主任連絡会	1.0		A 授業実習 A 研究授業に向けての検討
⑭	6	20	火		1.0		A 授業実習 A 研究授業に向けての検討
⑮	6	27	火	3年進路検討会	1.0		A 研究授業 I
⑯	7	2	土	全商ビジネス文書検定試験 実用英語検定2次		1.0	C 秋田大学附属特別支援学校公開研究協議会
⑰	7	4	火	期末考査	1.0		A 検証結果についての意見交換
⑱	7	11	火	甲子園予選	1.0		A 授業実習 B 組織的・系統的なキャリア教育についての意見交換

	月	日	曜日	学校・学級の状況 (学校行事)	校内	校外	実習計画
⑲	7	下旬				1.0	C コアティーチャー（中学校）の講話・ 打合せ※T2として授業参加
⑳	8	下旬				1.0	C コアティーチャー（中学校）とのTT授 業※T2として授業参加
㉑	8	下旬				1.0	C 総合教育センターA講座 高等学校授業力向上研修講座2-A 担当者講話
㉒	9	5	火		1.0		A 授業実習 A 研究授業に向けての検討
㉓	9	12	火		1.0		A 授業実習 A 研究授業に向けての検討
㉔	9	19	火			1.0	C 総合教育センターA講座 高等学校授業力向上研修講座2-A 見学・参加
㉕	9	26	火		1.0		A 研究授業II
㉖	10	3	火	中間考査	1.0		A 検証結果についての意見交換
㉗	10	31	火		1.0		A 授業実習 A 研究授業に向けての検討
㉘	11	7	火		1.0		A 授業実習 A 研究授業に向けての検討
㉙	11	14	火		1.0		A 授業実習 A 研究授業に向けての検討
㉚	11	17	金	ニュース時事能力検定		1.0	C 学力向上フォーラム（兼次世代型教 育推進セミナー）授業参観・協議参加
㉛	11	21	火	定例職員会議	1.0		A 研究授業III
㉜	11	28	火	期末考査	1.0		A 検証結果についての意見交換
㉝	12	5	火		1.0		A 授業実習 A 研究の考察
㉞	12	15	金	修学旅行（国内、国外）		1.0	C 全県指導主事等連絡協議会

合計 22.0 12.0
全合計 34.0

<その他の予定>

月	日	曜日	学校・学級の状況 (学校行事)	予定
8				合同リフレクション
1	9	火		研究報告会
2	6	火		事前発表会
2				教育実践研究報告書、抄録 学務課提出
2	17	土		オープンリフレクション
3				教育実践研究報告書 学務課最終提出

次年度計画書

発達教育・特別支援教育コース

提出日 平成29年3月23日

氏名	門 脇 恵	学籍番号	2 5 1 6 5 0 1
○教育実践研究報告書の仮テーマ			
<p style="text-align: center;">今後の病弱教育の充実に向けた検討</p> <p style="text-align: center;">－学習空白への対応の現状から、通常学級における支援の在り方を考える－</p>			
①報告書の完成に関わる計画・・・教育実践研究報告書完成まで			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年次の研究のまとめにおいて提案した次の4点について、年間を通じて実践を進める。 <ul style="list-style-type: none"> A：病弱教育推進に向けた研修会や情報発信の工夫，担当者会議の実施 B：特別支援学級担任のニーズに応じた情報提供の工夫，担任間の交流機会の確保 C：学習指導や心理面への配慮の充実を目指した授業内容や支援体制の検討及び実践の整理 D：通常学級における指導の実際（日々の指導，療養中，復学後等）に関する情報収集 ・ 上記の実践は月単位で進捗状況をまとめ，大学教員や病弱教育アドバイザーからの助言を仰ぐ。 ・ 県内関係校や関係機関との情報交換，他県の情報収集や学校視察，各種研究会への積極的参加を行い，研究の考察に生かす。 ・ 可能であれば，学習指導に直接関わる機会を設け，学習指導や支援における配慮点を自身の実践から省察する。 			
②①以外の学校マネジメント・協働力の向上に関わる計画			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 全県指導主事会議や特別支援学校のセンター的機能推進協議会への参加により，県内の教育課題を把握した上で実践を進める。 ・ ゆり支援学校道川分教室や病院等との共同実践を通し，よりよい連携の在り方について検討する。 			
③①以外のカリキュラム・授業デザイン力の向上に関わる計画			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 附属中学校公開研究協議会、学力向上フォーラムへの参加により，通常学級における学習指導の要点を把握し，学習支援や相談支援に生かす。 ・ 校内全校研究会や東北地区肢体不自由教育研究大会への参画により，教育課程や自立活動の指導の在り方について検討する。 			
④①以外の成長発達サポート力の向上に関わる計画			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 附属特別支援学校公開研究協議会やサポーター研修会への参加により，特別支援教育全体について考えを深める機会をもつ。 ・ 学校行事，校外学習への参加状況や配慮点の確認，教員や児童生徒同士の日々の関わりにおける様子観察を通して，心身の状態に応じた生徒指導や進路指導の在り方について考えを深める。 			
指導教員 (主)	藤 井 慶 博	指導教員 (副)	神 部 守

教職実践実習計画

平成29年3月23日現在

実習校 秋田県立秋田きらり支援学校

学籍番号 2516501 氏名 門脇 恵

*〔特〕は特別実習

	月	日	曜日	学校・学級の状況	実習計画
①	4	11	火		・ 病弱教育に関する課題及び業務に関する意見交換 (地域支援部主任・病弱教育アドバイザー)
②	4	20	木		・ 全県指導主事等連絡協議会〔特1〕
③	4	21	金	職員会議	・ 全県指導主事等連絡協議会〔特2〕
④		25	火		・ 市内特別支援学級授業観察, 担任との情報交換
⑤	5	10	水		・ 中通病院幼児教室 企画・運営 (5月)
⑥	5	16	火		・ 病弱教育対象児童生徒の授業観察, 担任との情報交換
⑦	6	2	金	学部会	・ 附属中学校公開研究協議会〔特3〕
⑧	6	13	火		・ 特別支援学校のセンター的機能推進協議会〔特4〕
⑨	6				・ 県内病弱・身体虚弱特別支援学級設置校訪問 (6月)
⑩	6				・ 中通病院幼児教室 企画・運営 (6月)
⑪	7				・ 県内病弱・身体虚弱特別支援学級設置校訪問 (7月)
⑫	7				・ 中通病院幼児教室 企画・運営 (7月)
⑬	7	1	土		・ 附属特別支援学校公開研究協議会〔特5〕
⑭	7			夏期休業中	・ 病弱教育地区別座談会 企画・運営 (県北)
⑮	7			夏期休業中	・ 病弱教育地区別座談会 企画・運営 (県南)

	月	日	曜日	学校・学級の状況	実習計画
⑩	7	27 28	木 金	夏期休業中	・第44回東北地区病弱虚弱教育研究連盟研究協議会 山形大会 協議会への参加及び次年度開催に向けた視察〔特6〕
⑪	8	18	金	夏期休業中	・病弱教育地区別座談会 企画・運営（県央）
⑫	8			夏期休業中	・サポーター研修会 協議補助（H28 湯沢市開催）〔特7〕
⑬	9	3	月	分掌部会	・病弱・身体虚弱特別支援学級設置校訪問のまとめ①
⑭	9	11	火		・病弱・身体虚弱特別支援学級設置校訪問のまとめ②
⑮	9	15 16 17	土 日 月		・第55回日本特殊教育学会 愛知大会 ポスター発表〔特8〕
⑯	9				・県内特別支援学級への相談支援，校内学習指導等支援①
⑰	10	11	水	分掌部会	・中通病院幼児教室 企画・運営
⑱	10				・県内特別支援学級への相談支援，校内学習指導等支援②
⑲	11				・県内特別支援学級への相談支援，校内学習指導等支援③
⑳	11	17 18	金 土		・学力向上フォーラム（秋田市）〔特9〕
㉑	11	21	火		・病弱教育研修会 企画・運営準備
㉒	11	28	火		・医教連携ケース検討会の実施 ・県内特別支援学級への相談支援，校内支援のまとめ
㉓	12	12	火		・実習のまとめ
㉔	12	15	金		・全県指導主事等連絡協議会〔特10〕
㉕	2	15	木		・特別支援学校のセンター的機能推進協議会〔特11〕

- ・新年度の分掌業務内容や相談支援のニーズ等により，内容は適宜変更・調整します。
- ・校内支援，特別支援学級への相談支援，中通病院入院幼児支援の実際は，計画回数を上回る見込みのため，バランスよく月1回程度ずつを実習として計画しました。実施分は月単位で集約し，記録としてまとめたいと考えています。
- ・校内においては，各種授業研究会や研修会の機会を活用し病弱教育対象生への支援を考察したり，効果的な情報発信，情報蓄積の方法について検討したりする取組も実施したいと考えています。

次年度計画書

発達教育・特別支援教育コース

提出日 平成29年3月30日

氏名	児玉 信子	学籍番号	2516502
○教育実践研究報告書の仮テーマ			
「秋田の探究型授業」とユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の融合による通常学級における授業改善			
①報告書の完成に関わる計画・・・教育実践研究報告書完成まで			
<p>1 目的</p> <p>1年次で作成した通常学級における授業改善のための資料(案)を活用しながら授業実践を行う。実践を通し、その効果と課題を検証し、資料を完成させる。そして、子どもたちにとっては「あると便利なユニバーサルデザインの授業」といった情報提供や普及に努める。</p> <p>2 方法</p> <p>○対象：五城目小学校 1学年2組28名</p> <p>○方法</p> <p><step1>・4～5月：児童全体の実態把握(担任、生活支援員)</p> <p>・6月：「SENチェックリスト」によるスクリーニング、教材研究(算数科)</p> <p>・7～8月：授業の実践と結果の分析 (授業観察と授業後ビデオ分析による検証、評価問題・単元評価問題による評価、児童の振り返り・インタビュー)</p> <p><step2>・9～10月：教材研究(算数科)</p> <p>・11～12月：授業の実践と結果の分析</p> <p>・1～3月：教育実践報告書等を作成とユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくりに関する資料作成</p>			
②①以外の学校マネジメント・協働力の向上に関わる計画			
<p>○学校のビジョンやめざす子どもの姿や卒業時の子どもの姿を見据え、学校経営に参画する。学校改善に向けて評価を行い、建設的な提案を行う。</p> <p>○子どもたちの成長と学びの保証を目指し、学年間、学団間の輪を大切にしたり取り組みを行う。</p> <p>・児童理解につながる話合いや共同研究授業の実施</p>			
③①以外のカリキュラム・授業デザイン力の向上に関わる計画			
<p>○校外実習での学びを授業実践に生かす。</p> <p>○就学前から小学校への接続期における発達理解と発達支援を考え、生活科を中心とした合科的な指導について検討する。(※秋田県幼小連携事業を活用)</p> <p>○多様性を認め合い、共に助け合い支え合う、共生社会の視点をこれまでの活動や学習に生かし、実践する。</p>			
④①以外の成長発達サポート力の向上に関わる計画			
<p>○校外実習を通し、特別支援教育全体について考える機会をもつ。</p> <p>○幼小連携(秋田県幼小連携事業を活用)を通し、児童理解、接続期を意識した連携について考える。</p> <p>○ことばの検査の実施を通して、児童理解と支援・指導の在り方や保護者との連携について学ぶ。</p>			
指導教員 (主)	藤井 慶博	指導教員 (副)	神部 守

□前期（4～7月，夏休み）

校内	特別	月日	担 当	実 習 内 容	備 考
1		4 / 11 (火)	校 長	授業実習① 学校経営，学校目標に関する協議・提案	*運営委員会(運動会)
2		4 / 18 (火)	研究主任	授業実習② 校内研究とUDの授業の視点を探る	全国学力状況調査・知能検査
	①	4 / 20 (木)		全県指導主事連絡協議会参加	交通安全教室 *21日 授業参観
	②	4 / 26 (水)		通級指導教室担当者連絡協議会参加	*27日 1年生を迎える会
3		5 / 9 (火)	教 務	授業実習③ 教育課程に関する協議・提案	
4		5 / 16 (火)	生徒指導主事	授業実習④ 生徒指導に関する協議・提案	*運動会 5/20(土) *チャレンジデー5/30(火)
	③	6 / 9 (金)		秋田大学教育文化学部附属小学校公開 協議会参加	
5		6 / 13 (火)	特担	授業実習⑤ 校内特別支援教育セミナー指導案検討会に参加	*6/6(火)1年校外学習
6		6 / 26 (月) 予定	特コ・特主	授業実習⑥ 校内特別支援教育セミナーに参加・提案	
7		6 / 28 (水) 予定		小中連携授業交流会(小学校) ①事前検討会2回②事前研③協議会参加	
8		6月下旬 ～夏休み	特コ(教頭) 教育専門監	ことばの検査①(実施観察) ことばの検査②(評価に関する面接と保護者面接の実際)	町主催
	④	7 / 7 (金)		特別支援教育かがやきミーティング協議 会参加	
9		7 / 11 (火)		授業実習⑦～授業実践	*7/4(火)1年 校外学習
10		7 / 18 (火)		授業実習⑧～授業実践	
		7 / 25 (火)	教 頭	学校評価に関する分析・考察	夏休み
	⑤	8 / 16 (水)		上級コーディネーター研修会Ⅱ 協議会参加	夏休み

※秋田県幼小連携推進事業（年7回実施）

□後期（9～11月，冬休み）

校内	特別	月日	担 当	実 習 内 容	備 考
	⑥	9 / 7 (木)		教育支援地区別連絡協議会参加	
1		9 / 8 (金)		授業実習① 小・中学校特別支援学級新任研修講座Ⅲに参加（校内会場）	
	⑦	9 / 13 (水)		各教科指導力向上研修会（算数・数学）	
	⑧	9 / 16 (土)		日本特殊教育学会参加（ポスター発表）	→ 16日～18日 3日間開催
2		9 / 19 (火) 希望		要請研 ①事前検討会2回②事前研③協議参加	
3		9 / 26 (火)		授業実習② 研究主任（前算数科専門監）の授業への参観・参加	
4		10 / 17 (火)		授業実習③ センター的機能を活用した児童理解と指導・支援を協議	*10/3(火) マラソン大会,縦割りなべっこ
5		10 / 23 (火)		授業実習④ 理科教育専門監の授業への参観・参加	*10/7～10/15 秋休み *10/28(土) 学習発表会
	⑨	10 / 30 (火)		キャリア教育実践研究協議会参加	振替休業日（学習発表会）
6		11 / 2 (火)		授業実習⑤ 2年生の授業参観と参加	
7		11 / 6 (月) 希望		授業実習⑥ 小中連携授業交流会に参加（中学校）	
8		11 / 14 (火) 希望		教科等訪問 ①事前検討会2回②事前研③協議参加	
	⑩	11/17(金) (～18(土))		学力向上フォーラム（兼次世代型教育推進セミナー）	
9		11 / 21 (火)		授業実習⑦～授業実践	
10		11 / 28 (火)		授業実習⑧～授業実践	
		1 / 12 (金)		道徳教育パワーアップ協議会	冬休み

- ・小中連携授業交流会，要請研などへの参加は，研究協議に参加の他，指導主事の指導・助言の在り方について理解を深める。

次年度計画書

発達教育・特別支援教育コース

提出日 平成 29 年 3 月 23 日

氏名	本多 由香	学籍番号	2 5 1 6 5 0 5
○教育実践研究報告書の仮テーマ			
特別支援学校における地域資源活用に関する検討			
①報告書の完成に関わる計画・・・教育実践研究報告書完成まで			
<p>目的</p> <p>特別支援学校の歩みの中で、地域の小・中学校との交流及び共同学習はこれまで盛んに行われてきた。一方、地域資源活用や地域貢献活動等の地域との関わりについてはまだ十分に検討されてきていない。その内容は単発から継続までさまざまである。</p> <p>障害者制度改革の動きを踏まえて、一層発展が期待される地域との関わりについて、大曲支援学校の事例をもとに、地域に根付く活動の在り方を検討する。</p> <p>方法</p> <p>大曲支援学校と大曲支援学校せんぼく校の地域との関わりに関する実践事例から、児童生徒の様子や感想、旧職員を含めた関係者や地域の方へのインタビュー、アンケート等を通して変容について分析する。比較対象として他支援学校の取組を事例として取り上げる。</p> <p>研究計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2 年次研究概要の作成（4 月上旬） ・ 所属校における地域資源活用に関する資料整理（4 月中） ・ 研究テーマに沿った実践と論点整理のための資料収集、担当教員とのリフレクション（4 月～8 月） ・ 研究報告書の作成開始（9 月） ・ 研究報告書作成に向けた担当教員とのリフレクション（9 月～12 月） ・ 研究報告書の推敲（1 月～2 月） 			
②①以外の学校マネジメント・協働力の向上に関わる計画			
<p>学級学年経営を通して、同僚性の発揮のためのマネジメント力を発揮する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日々の学級学年運営 			
③①以外のカリキュラム・授業デザイン力の向上に関わる計画			
<p>指導主事、教育専門監との学校訪問を通して、授業分析力を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援教育セミナーへの協力、教育専門監への同行 			
④①以外の成長発達サポート力の向上に関わる計画			
<p>ケース検討会、授業研究会への参加を通して、アセスメントと今後の支援に関する検討を協働で行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「日々の授業研究会」への参加、特別支援教育セミナーへの協力 			
指導教員 (主)	武 田 篤	指導教員 (副)	神 部 守

教職実践実習計画(案)

実習校 秋田県立大曲支援学校

学籍番号 2516505 氏名 本多 由香

回数	月 日	学校行事等	担当	実習区分		実 習 計 画
				校内	校外	
1	4月11日(火)	運営委員会 小:身体測定	教頭	○		大曲支援学校の地域資源活用に関する調査・分析・まとめ
2	4月18日(火)	個別の指導計画面談 小:交通安全教室 副校長・教頭会	教頭	○		大曲支援学校の地域資源活用に関する調査・分析・まとめ
3	4月25日(火)	舎:オリエンテーション	未定	○		せんぼく校の取組に関する聞き取り調査・分析・まとめ
4	5月23日(火)	学部研究会	未定	○		せんぼく校の取組に関する聞き取り調査・分析・まとめ
5	5月30日(火)	小:歩こう会	未定	○		せんぼく校の取組に関する聞き取り調査・分析・まとめ
6	6月 6日(火)	教務主任連絡協議会 舎:ひだまりコーヒースロン	教頭	○		大曲支援学校の地域資源活用に関する調査・分析・授業改善等
7	6月20日(火)	全校研究会	教頭	○		大曲支援学校の地域資源活用に関する調査・分析・授業改善等
8	7月 4日(火)	高:修学旅行 新任コーディネーター研	教頭	○		大曲支援学校の地域資源活用に関する調査・分析・授業改善等
9	7月11日(火)	小:PTA 中:クリーンアップ	地域支援部主任	○		各学部ケース検討会の協働運営
10	7月18日(火)	中:PTA 介護等体験	地域支援部主任	○		居住地校交流に関する本校の実態調査・分析等
11	7月25日(火)		未定	○		せんぼく校の取組に関する聞き取り調査・分析等
12	8月 8日(火)		ボランティア担当	○		地域ボランティアとの連携に関する調査・分析等
13	8月15日(火)		ボランティア担当	○		地域ボランティアとの連携に関する調査・分析等
14	8月22日(火)		ボランティア担当	○		地域ボランティアとの連携に関する調査・分析等
15	9月 5日(火)	運営委員会 舎:ひだまりコーヒースロン	未定	○		せんぼく校の取組に関する聞き取り調査・分析等
16	9月12日(火)	職員会議	教育専門監	○		「日々の授業研究会」参観と協議
17	9月19日(火)		教育専門監	○		「日々の授業研究会」参観と協議
18	9月26日(火)	中:クリーンアップ 小:サツマイモほり 就学・教育相談(大仙)	教育専門監	○		「日々の授業研究会」参観と協議
19	11月7日(火)		教育専門監	○		「日々の授業研究会」参観と協議
20	11月14日(火)	学部会 運営委員会 小:内小友小 新任コーディネーター研	教育専門監	○		「日々の授業研究会」参観と協議
21	2月15日(木)		教頭		○	センター的機能推進協議会②
22	期日未定		教頭		○	特別支援教育セミナー協力員
23	期日未定		教頭		○	特別支援教育セミナー協力員
24	期日未定		教頭		○	特別支援教育セミナー協力員
25	期日未定		教頭		○	特別支援教育セミナー協力員
26	期日未定		教頭		○	特別支援教育セミナー協力員
27	期日未定		教育専門監		○	教育専門監への同行(市町教育委員会主催支援会 協議会参加)
28	期日未定		教育専門監		○	教育専門監への同行(市町教育委員会主催支援会議 協議会参加)
29	期日未定		教育専門監		○	教育専門監への同行(授業参観、協議会参加 等)
30	期日未定		教育専門監		○	教育専門監への同行(授業参観、協議会参加 等)

2017年度計画書

カリキュラム・授業開発コース

2017年 4月 28日

氏名	岩澤 郷子	学籍番号	2516401
○教育実践研究報告書の仮テーマ			
知覚・感受をもとに主体的に表現する力を育成する授業の研究			
①報告書の完成に関わる計画・・・教育実践研究報告書完成まで			
《目的》 中学校音楽科において、生徒が知覚・感受したことをもとに主体的に表現活動などを行うことができるような効果的な授業について検討する。			
《実習計画》			
文献、資料収集	4月～12月		
担当教員とのリフレクション	4月 インターンシップ、研究内容の打ち合わせ 5～11月 インターンシップの振り返り等 12月以降 実践研究報告書の内容に関する検討		
インターンシップ校における授業参加、授業実践	5月～11月 インターンシップ実施日随時 ・教師による発問や生徒の授業における活動の様子、授業毎の振りかえり等を通して生徒の変容を探る。		
検証授業	10月、11月に2回程度		
教育実践研究報告書の作成・推敲	11月～2月		
②①以外の学校マネジメント・協働力の向上に関わる計画			
<ul style="list-style-type: none"> ・実習校における職員室や学級のマネジメント・協働の様子を知り、学校組織の一員として貢献することができるよう努める。 ・様々な本や文献を通して、学校マネジメントや協働について学び、実践に生かす。 			
③①以外のカリキュラム・授業デザイン力の向上に関わる計画			
<ul style="list-style-type: none"> ・秋田県内の様々な研究会へ積極的に参加し、できるだけ多くの授業や考えに触れ、自己の授業実践に生かす。 ・音楽科の授業だけではなく、道徳や特別活動においても授業実践を行い、教員としての経験を積む。 ・多くの文献を読み、授業デザインに関する知識を豊かにし、実践に生かす。 			
④①以外の成長発達サポート力の向上に関わる計画			
<ul style="list-style-type: none"> ・実習校の実態を把握し、教職員の子どもの関わりの様子を観察しながら適切な関わり方を学ぶ。 ・生徒と積極的に関わり、生徒理解に努める。 			
指導教員 (主)	長瀬 達也	指導教員 (副)	関谷美佳子

2017年度計画書

カリキュラム・授業開発コース

提出日 平成 29 年 4 月 20 日

氏名	鎌田 貴文	学籍番号	2516402
○教育実践研究報告書の仮テーマ			
内言の外言化に着目した秋田県の「探究型授業」に関する研究			
① 報告書の完成に関わる計画・・・教育実践研究報告書完成まで			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 4月～：「深い学び」についての理論面からの研究。 ・ 5月～：「深い学び」に重点を置いた授業実践。 ・ 12月～：2年間を通した研究内容の整理。 ・ 1月～：報告書の作成及びプレゼンテーションの準備。 			
② ①以外の学校マネジメント・協働力の向上に関わる計画			
○カリキュラム・マネジメントの視点からの学級経営の取り組み方についての学修。			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学年経営計画と学級経営計画の連携の図り方。 ・ 1年間を通した学級経営の具体的なイメージ。 ・ 学校、学年、学級での共通実践の図り方。 			
③ ①以外のカリキュラム・授業デザイン力の向上に関わる計画			
○秋田県の「探求型授業」を実践するための授業技術の向上。			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元全体を見通した秋田県の「探究型授業」の効果的な取り組み方。 ・ 「深い学び」を実現する効果的な発問を実施するための取り組み。 ・ 学びの必要感をもたらす効果的なねらいの設定のための取り組み。 			
④ ①以外の成長発達サポート力の向上に関わる計画			
○秋田県の「探求型授業」を実践するための学習集団づくりに向けた力量の向上。			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習ルールを徹底されるための担任としての取り組み。 ・ 学習のできる学級集団づくりに向けた取り組み。 			
指導教員 (主)	阿部 昇	指導教員 (副)	千葉 圭子

2017年度計画書

提出日 5月1日

カリキュラム・授業開発コース

氏名	岸 陽弘	学籍番号	2516403
○教育実践研究報告書の仮テーマ			
教科の指導における「対話的な学び」の実現について ～「探究型授業」の在り方を中心に～			
① 報告書の完成に関わる計画・・・教育実践研究報告書完成まで			
<p>【今後の研究内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「探究型授業」を通して児童に身に付く学びの有効性の解明。それを踏まえて、秋田の「探究型授業」の対話について、改善が必要な部分の解明。 ・子ども同士の関係の、「対話的な学び」を通しての一時間での変化。 ・「対話的な学び」を行う際にばらつきが発生する理由の解明。 →全員が課題を達成できるよう、ばらつきの原因と解消する手立てを検討する。 ・思考を広げ、考えを深める「対話的な学び」の在り方の解明。 →「浅い対話とは何か」という観点から探る。 <p>○5月～10月 授業参観と授業実践。文献と実践による研究。</p> <p>○11月～ 実習を踏まえた研究のまとめ作業。</p> <p>【調査方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビデオカメラの活用 →ビデオカメラを使用して授業の様子を撮影し、教師の動きや児童の変容を探る。 ・ICレコーダーの活用 →授業内の班ごとの「対話的な学び」を通しての、児童の変容を探る。 ・振り返り・アンケートの実施 →授業前の自身の状態と、授業後の自身の状態に関するアンケート・振り返りを行い、児童自身と教師が変容を把握できるようにする。 			
② ①以外の学校マネジメント・協働力の向上に関わる計画			
<ul style="list-style-type: none"> ・わからないことはそのままにせずその日のうちに正直に尋ね、先生方からの助言を仰ぐ。 ・児童一人一人に対し一日ひと声をかけ、「対話」の心地よさを感じることができるようになる。 			
③ ①以外のカリキュラム・授業デザイン力の向上に関わる計画			
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の目指すべき型を見つけるため、児童の対話の回数や質などの様子に着目しながら様々な授業を参観し、自分自身でも実践する。 ・研究テーマを踏まえ、どのように授業中に「対話的な学び」を用いることが、学習課題の達成に効果的なのかを検証・実践する。 ・カリキュラム編成上の工夫、特徴を教えてください。 ・「探究型授業」に限らず、授業の工夫を探る。 			
④ ①以外の成長発達サポート力の向上に関わる計画			
<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の個に応じた、先生方の指導の在り方を学ぶ。 ・より指導を効果的に行うことができるよう、授業中や休み時間の交流を通して、児童との信頼関係を築く。 			
指導教員 (主)	阿部 昇	指導教員 (副)	千葉 圭子

2017年度計画書

カリキュラム・授業開発コース

提出日 29年 4月 18日

氏名	柴田省吾	学籍番号	2516405
○教育実践研究報告書の仮テーマ			
防災教育の推進に関する一考察 ～理科における自然現象の二面性を取り扱った授業実践～			
①報告書の完成に関わる計画・・・教育実践研究報告書完成まで			
<p>【研究の趣旨】 新学習指導要領案(2017)の理科編に記述された『(4) 天気, 川, 土地などの指導に当たっては, 災害に関する基礎的な理解が図られるようにすること。』をもとに理科授業の中での防災教育を行う。</p> <p>【研究の流れ】</p> <p>5月 事前アンケート調査① 自然現象の二面性や自然現象に対するイメージを訪ねる。 8月 事前アンケート調査② 上記と同様。授業実践直前で児童の意識に変化がないか調べる。 9月 授業実践(自然現象の二面性を取り扱った授業実践) 自然現象の二面性を児童が理解しやすいように社会生活と絡めた内容を教材にする。</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> <pre> graph LR A[自然現象の恩恵面についての授業] --> B[自然現象の災害面についての授業] B --> C[自然現象に対する防災方法の授業] </pre> </div> <p>10月 事後アンケート調査 自然現象の二面性や自然現象に対するイメージ, また防災の方法について訪ねる。 11月 分析調査 自然現象の二面性や自然現象に対するイメージがどのように変わったか, 防災方法は定着しているか(防災教育の評価)を分析する。 防災教育の評価結果に合わせて, 授業改善を行う。</p>			
②①以外の学校マネジメント・協働力の向上に関わる計画			
<p>メリハリのある人間を目指したい。児童に対しては, ①積極的に遊べる教員になりたい。②週1回は学級に手紙を書きたい。週1回しか会えないため, 交友を手紙でも温めていきたい。</p> <p>担任教員からは, 様々な学級づくりの手法を学びたい(学級の整美・備品管理・掲示物管理など)。他の学級にも積極的に赴き, 学びの機会を増やす。質問をして授業の技術(例えば, 間の取り方)を学ぶ。笑顔が心がけ, 来てくれると学校が明るくなるといわれるような教員を目指す。</p>			
③①以外のカリキュラム・授業デザイン力の向上に関わる計画			
<p>各教科の授業を積極的に行う。各教科の特色を意識した授業を行い, 他の様々な授業に応用できるようになりたい。また, 児童が分かりやすいように社会生活と関連した題材を使った授業を考えていきたい。</p> <p>さらに, 教員として見やすい板書を心がける。そのために字もきれいに書けるよう練習する。</p>			
④①以外の成長発達サポート力の向上に関わる計画			
<p>学級経営・生徒指導の礎となる児童との信頼関係を大事にしていきたい。そのためにも, 児童の年齢を考慮して会話ができるように, 児童と共有できる話題に対してアンテナを張っていきたい。また, 叱るべき場面に叱れる教員になれるよう意識したい。現場の先生方はどんなときにしっかり叱るのかを学んでいきたい。</p> <p>特別な支援が必要な児童に対しては「なぜ, そうしてしまうのか。」ということをしつかりと考え, 一人一人に誠実に, 向き合っていきたい。</p>			
指導教員 (主)	林 信太郎	指導教員 (副)	古内 一樹

2017年度計画書

カリキュラム・授業開発コース

提出日 2017年 4月21日

氏名	菅原 郁也	学籍番号	2516406
○教育研究報告書の仮テーマ・研究目的・研究方法			
◇仮テーマ 対話による課題解決集団の育成—p4cを活用した実践を通して—			
◇研究目的… p4cを活用した授業実践を通じ、授業での対話が学習者の課題解決能力に対してどのような影響を与えたのかを明らかにするとともに、対話の有効性について検証を図る。			
◇研究方法…アンケートに基づく数値での評価、ICレコーダーでの対話の記録・分析、授業後の感想の分析			
①報告書の完成に関わる計画（教育実践研究報告書完成まで）			
時期	実習内容	研究内容	
2017年4月	・実習校との打ち合わせ等（4/18, 26） ※実習校…秋田市立岩見三内中学校	・先行研究の検討	
5・6月 （～6/27）	・集中実習（5/8～16の7日間）※T1・2 ・毎週火曜日実習（5日+α）※T1・2 ・リフレクション	・アンケート①（対象学級の実態把握） ・検証授業①（社会科） ※具体的な授業内容は未定	
7月	・前期のまとめ	・アンケート②（前期の変容の見取り） ・後期の計画の改善	
8・9月	・集中実習（9/25～29の5日間）※T1・2 ・リフレクション	※社会科教育ゼミで中間報告実施予定	
10～12月	・毎週火曜日実習（5日+α）※T1・T2 ・集中実習（10/23～11/22の9日間）※T1・T2 ・リフレクション、実習のまとめ	・検証授業②・③（社会科・道徳） ・アンケート③（後期の変容の見取り）	
2018年1月	※時間が許す限りできるだけ実習校で実習したい	・教育実践研究報告書（1次案）完成	
2月		・プレ第2回オープンリフレクション ・第2回オープンリフレクション ・教育実践研究報告書完成、提出	
②①以外の学校マネジメント・協働力の向上に関わる計画			
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの反応や行動を受け止め、安心できるような言葉がけを心掛ける ・小中連携や地域連携について、実習校の実践から学ぶ 			
③①以外のカリキュラム・授業デザイン力の向上に関わる計画			
<ul style="list-style-type: none"> ・校種や教科、領域を問わず、「話し合い活動」に焦点を当てた授業参観をする ・話し合いにつながる問いを生み出す教材研究をする ・学校、学級の実態を把握し、ねらいを明確にした授業づくりを行う 			
④①以外の成長発達サポート力の向上に関わる計画			
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと心をつなぐお便りや掲示物を作成する（自己紹介をはじめ、社会科への関心や意欲の向上を図る） ・支援を要する子どもの把握や情報共有を通じ、実際の配慮の仕方について考える 			
主指導教員	千葉 圭子先生	副指導教員	原 義彦 先生
		協力教員	外池 智 先生

2017年度計画書

カリキュラム・授業開発コース

提出日 2017年 5月 2日

氏名	菅原 美智	学籍番号	2516407
○教育実践研究報告書の仮テーマ			
国語科授業におけるユニバーサルデザインの研究			
①報告書の完成に関わる計画・・・教育実践研究報告書完成まで			
実施内容	実施月	具体的に取り組みたいこと	
指導教材の決定、教材研究	4月～	学校側との打ち合わせを踏まえて、授業実践を行う教材の検討、決定。	
アンケート項目の検討、アンケート作成	4月～	昨年度のアンケートを参考にしつつ、項目を改善する。	
事前アンケートの実施、授業実践	5月～	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の開発、授業実践。可能であれば、複数の学年を指導することで各学年の系統性を考えて授業開発を行う。	
事後アンケートの実施	11月	授業を受ける前と後の意識の変化を調査する。情意面、理解面における変化を測るためのアンケート項目や手立てを考える。	
アンケート結果の集計、分析、考察	12月	事前アンケートと事後アンケートの結果を比較、分析する。	
教育実践研究報告書の作成	12月～	ユニバーサルデザインの有効性についてまとめる。	
②①以外の学校マネジメント・協働力の向上に関わる計画			
<ul style="list-style-type: none"> ・小規模校ならではの教員の関わり方を学ぶ。 ・校務分掌ごとの具体的な仕事内容について理解を深める。 			
③①以外のカリキュラム・授業デザイン力の向上に関わる計画			
<ul style="list-style-type: none"> ・国語科に限らず様々な教科の授業を参観させていただき、指導技術を学ぶ。 ・実習校で行われる研究会や校内研修会に参加して学びを深める。 <p>※インターンシップに加えて、複数の特別支援学校への訪問を通して、教科教育の指導方法の理解を深める。(附属特別支援学校、聴覚支援学校、視覚支援学校、きらり支援学校、栗田支援学校など)</p>			
④①以外の成長発達サポート力の向上に関わる計画			
<ul style="list-style-type: none"> ・実習校の先生方から、学級内の人間関係づくりや学級通信の取組を教えていただく。 ・学年や発達段階に応じた生徒との関わり方を学ぶ。 ・配慮を要する生徒の指導について学ぶ。 			
指導教員 (主)	関谷 美佳子	指導教員 (副)	阿部 昇 成田 雅樹

2017年度計画書

カリキュラム・授業開発コース

29 年 4 月 18 日

氏名	富樫啓太郎	学籍番号	2516408
○教育実践研究報告書の仮テーマ			
子どもが「できた」、「わかった」を感じられる授業づくり～学びの成果を実感できる振り返りの工夫～			
①報告書の完成に関わる計画・・・教育実践研究報告書完成まで			
<p>【研究目的】 学びの成果を実感するために、授業の振り返りにおいてその授業における児童自身の学びの過程をメタ的に認知したり、新たな疑問を見つけたりするための振り返りのあり方について研究する。</p> <p>【研究計画】 4月・・・文献調査，研究方法検討 5月・・・実態把握，研究の視点の焦点化（課題提示と振り返りの関連性について） T₂としての授業実践 6月・・・授業実践，実践授業の分析 8月・・・半期のまとめ，研究方法の再検討，文献調査 9月・・・教材分析，教材作成 10月・・・実践授業（研究授業(1)），実践授業の分析 11月・・・実践授業実施（研究授業(2)），実践授業の分析 12月～・・・研究のまとめ，教育実践報告書作成，プレゼンテーション作成 3月・・・教育実践報告書完成</p>			
②①以外の学校マネジメント・協働力の向上に関わる計画			
<ul style="list-style-type: none"> ・先生方とコミュニケーションを密にし，教育活動に積極的に参画する。 ・先生方同士の連携，協働する姿を見て学ぶ。 			
③①以外のカリキュラム・授業デザイン力の向上に関わる計画			
<ul style="list-style-type: none"> ・教室の掲示物の内容や構成等，教室環境の工夫について学ぶ。 ・年間指導計画をもとに，各教科の授業づくりの実践を積む。 ・ワークシートの作り方や，ノート指導の方法を学ぶ。 			
④①以外の成長発達サポート力の向上に関わる計画			
<ul style="list-style-type: none"> ・児童のみとり方を学ぶ。 ・特別な配慮が必要な児童へのサポートを学ぶ。 ・偏りのない個別指導と全体への指導に関わる先生方の実践を学ぶ。 ・教育活動全体を通して，児童と教師や児童同士の信頼関係の構築を目指した指導や言葉かけの方法を学ぶ。 			
指導教員 (主)	関谷 美佳子	指導教員 (副)	林 信太郎

2017年度計画書

カリキュラム・授業開発コース

提出日 平成 29年 5 月 1日

氏名	野坂 奨	学籍番号	2516410
○教育実践研究報告書の仮テーマ			
社会的な見方・考え方を育成する「発問」の工夫 －発問の機能的分類を用いた考察－			
①報告書の完成に関わる計画・・・教育実践研究報告書完成まで			
5月～11月・・・授業実践 ・先行研究から、研究の手順について考察する。 ・振り返りシートを使った生徒の記述から仮説の検証を適宜行い、次の授業につなげる。 ※振り返りシートは別紙参照 12月～2月・・・実践結果のまとめと教育実践研究報告書の作成 【分析・評価】 ・発問シート（振り返りシート）の活用 →生徒の記述から内容を観点別に分類し、発問がもたらした効果について分析する。 ・アンケート（事前・事後） →単元の内容について、単元の授業を受ける前と後で記述内容の変化が見られたか分析する。			
②①以外の学校マネジメント・協働力の向上に関わる計画			
・教育課程や校務分掌等から学校組織を学ぶ。 ・担当教員と朝・放課後の打ち合わせを確立し、円滑な学級経営や充実した学習指導を学ぶ。 ・可能な範囲で学級経営に積極的に関わる。			
③①以外のカリキュラム・授業デザイン力の向上に関わる計画			
・週1回指導案を作成し、担当教員や担当教科教員の指導を仰ぐ。 ・空き時間はできるだけ授業参観し、様々な学習指導の様子を学ぶ。 ・公開研究会へ参加し、自己の授業力を高める。			
④①以外の成長発達サポート力の向上に関わる計画			
・学級経営や授業等において生徒と積極的にコミュニケーションを図り、信頼される人間関係を構築する。 ・授業の振り返りや1日の振り返りのコメントを確認し、生徒理解に努める。 ・週1回栗田支援学校寄宿舎での指導を行う。			
指導教員 (主)	古内 一樹	指導教員 (副)	原 義彦

2017年度計画書

カリキュラム・授業開発コース

提出日 29年 4月 21日

氏名	松本 深鈴	学籍番号	2516411
○教育実践研究報告書の仮テーマ			
ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくりに関する研究 ～通常学級における数学の授業を通して～			
①報告書の完成に関わる計画・・・教育実践研究報告書完成まで			
<p>1. 目的：一年目では、導入の部分に着目し、「焦点化」「視覚化」「共有化」の視点を授業の中で実現できるのではないかと考え、実施した。結果、導入部分でのみの「焦点化」「視覚化」「共有化」の実現ではなく、授業構造全体での「焦点化」「視覚化」「共有化」がより効果的ではないかという一つの仮説を見つけることができた。今年度は、授業全体あるいは、可能であれば単元全体でのユニバーサルデザインの授業を実施する。授業全体を「焦点化」「視覚化」「共有化」の視点を踏まえ構成し、「授業のユニバーサルデザイン」の要素を数学の授業の中で取り入れるとどのようになるか示していく。また、「授業のユニバーサルデザイン」の根本である特別支援教育の視点での支援を取り入れる事で、特別支援教育の視点を踏まえた支援方法が教科教育にもたらす効果を示す。</p> <p>2. 方法：</p> <p>①対象：秋田市立雄和中学校の配属学級</p> <p>②期間：5～6月（実習授業・実態把握）、9～11月（研究授業・分析）</p> <p>③方法：対象クラスにおいて、数学の授業の授業観察・参加を行い、状況を把握する。数学が得意な生徒や苦手な生徒に関わらず、全生徒に着目し、一人一人の授業への参加の状態や理解度、数学への好奇心の変化などを調査し、ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業構造の成果と課題を検証する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前アンケート ・授業参観における状況把握 ・授業実施（ビデオ記録）（毎回の振り返り） ・事後アンケート、小テスト、インタビューの実施 <p>④検証・まとめ：アンケートやインタビューを基に検証しまとめる</p>			
②①以外の学校マネジメント・協働力の向上に関わる計画			
<p>【目標】学校組織として行われている教師の職務を理解すると共に、可能な職務を率先して行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒、先生方とのコミュニケーションを率先して行う。 ・学校の一員である意識をもち、積極的な行動を心掛け、円滑な組織運営に関われるように心掛ける。 			
③①以外のカリキュラム・授業デザイン力の向上に関わる計画			
<p>【目標】教師の発問の仕方や生徒とのやり取りを学び、生徒主体となる授業を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導の在り方やT2としての役割を学び、実施する。 ・板書の取り方を学び、ノート指導を行う。 ・授業中にメリハリをつけ授業を実施する。 ・雄和中の研究課題を意識し、実習授業を実施する。 			
④①以外の成長発達サポート力の向上に関わる計画			
<p>【目標】授業以外の教師の仕事や生徒との関わりを通して生徒とのコミュニケーションをとる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常的生活指導をはじめ、学級担任の行う仕事を率先して行う。 ・清掃指導や給食指導。 ・通常学級における発達障害のある生徒への対応。 ・進路や夢に関する相談。 			
指導教員（主）	田仲誠祐	指導教員（副）	長瀬達也

2017年度計画書

カリキュラム・授業開発コース

平成 29 年 5 月 2 日

氏名	渡辺太郎	学籍番号	2516413
○教育実践研究報告書の仮テーマ			
学習意欲を高める授業づくりに関する研究 ～数学の授業における学習課題のつくり方に着目した活用型の授業を通して～			
① 報告書の完成に関わる計画・・・教育実践研究報告書完成まで			
3月～4月	5月～6月	7月～9月	10月～11月
研究仮説を立て、授業実践に向けた準備をする(Plan) ・文献研究 ・アンケートの作成 ・生徒への取材 ・研究仮説をもとに授業案の作成	アンケート調査と授業実践を行い、効果を確かめる(Do) ・アンケート調査の実施(5/8と6/27に実施) ・授業実践と記録 ・リフレクションを行い授業改善	前期の授業を振り返りと授業改善と仮説の検討をする(Check) ・事前アンケートと事後アンケートをもとに仮説検討 ・授業改善案の作成	授業改善案をもとに授業再び授業実践を行い、まとめに入る(Action) ・授業改善案をもとに授業実践 ・アンケート調査実施(10月最後の授業で実施予定) ・実践報告書の作成
②①以外の学校マネジメント・協働力の向上に関わる計画			
<ul style="list-style-type: none"> ・校務分掌ごとの仕事について理解を深める。 ・保護者や地域の方々と連携した教育の在り方について知る。 			
③①以外のカリキュラム・授業デザイン力の向上に関わる計画			
<ul style="list-style-type: none"> ・専門科目にかかわらず、様々な教科の教師から授業の技術を学ぶ。 ・授業検討会への参加。 ・学級の環境づくりに関する理解を深める。 			
④①以外の成長発達サポート力の向上に関わる計画			
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導について理解を深める。 ・特別な支援を要する子どもへの支援の在り方を学ぶ。 ・部活動への参加。 			
指導教員 (主)	田仲誠祐	指導教員 (副)	長瀬達也

2017年度計画書

発達教育・特別支援教育コース

提出日 平成29年4月27日

氏名	高橋 渉	学籍番号	2516503
○教育実践研究報告書のテーマ			
知的障害教育における教科の指導の在り方 ～生活を豊かにする力の育成を目指して～			
①報告書の完成に関わる計画・・・教育実践研究報告書完成まで			
○研究の目的 「知的障害のある児童生徒の生活を豊かにする力を育むための教科指導の在り方について検討する」			
○研究の方法			
(1) アンケート調査、聞き取り調査、記録（実習授業等の授業実践をビデオ録画すること）による検討、アセスメントやキャリア教育の視点からの検討 対象：秋田県内の知的障害特別支援学校の教員			
(2) 内容			
・知的障害特別支援学校の教科指導について、取り扱われている具体的な指導の形態を把握する。また、障害の程度や発達段階等、子どもの実態に即した指導内容、方法の共通した傾向や、実生活を豊かにする力を育むための在り方についても考察する。			
○授業実践			
方法：生活を豊かにする力を育む教科指導の実践			
対象：県立栗田支援学校中学部			
内容：国語・数学、日常生活の指導、生活単元学習等			
・学習した内容が、実生活を豊かにしているのかを、学習評価やアンケート調査により検討する。			
②①以外の学校マネジメント・協働力の向上に関わる計画			
・配属学級の学級運営や生徒指導等への積極的な参画により、TT間や学部間の連携や共通理解を図るための協働力を身に付ける。			
③①以外のカリキュラム・授業デザイン力の向上に関わる計画			
・適確な実態把握や生徒との関わりを通じた生徒理解、「個別の支援計画」や「個別の指導計画」に基づく単元設定や授業を実践する。			
・附属特別支援学校の公開授業研究会に参加することにより、「個別の支援計画（私の応援計画）」や生徒のニーズを反映させた教育課程の編成、教科別の指導や教科等を合わせた指導の在り方について学ぶ。			
・次期学習指導要領に規定されている各教科の目標や内容の理解に努め、それを授業づくりに生かす。			
④①以外の成長発達サポート力の向上に関わる計画			
・個々の生徒理解に基づいた授業実践に努めることで、生徒の「分かる」「できる」を積み重ねて自信につながられるようにする。			
・地域をテーマにした学習活動に積極的に参画し、地域に貢献したり、人から感謝されたりする活動を通して、生徒の自己有用感や主体的な態度を育む。			
指導教員 (主)	藤井 慶博	指導教員 (副)	神部 守

2017年度計画書

発達教育・特別支援教育コース

提出日 平成29年 4月 11日

氏名	つじ あすか 辻 明日香	学籍番号	2516504
○教育実践研究報告書の仮テーマ			
学級集団の自己組織化を促進する話し合い活動 ーペア学習から学級活動までの実践よりー			
①報告書の完成に関わる計画・・・教育実践研究報告書完成まで			
5月	学級目標や掲示物など、教室環境の観察 担任の授業進行の特徴（指名の仕方、発言のルールなど） 板書の特徴（チョークの使い方、掲示物の活用など） 児童との関係づくり		
6月	13日までを目処に児童と担任を対象とした事前アンケートを作成 20日か27日にアンケートを実施		
7~8月	アンケート結果の分析をまとめる それを基に実践授業の計画を立てる		
9~11月	実践授業を行い、児童には毎回振り返りを記入してもらう 最終授業では事後アンケートを児童と担任に行う		
11月以降	アンケートや振り返りの分析を行い、実践報告書を作成する		
②①以外の学校マネジメント・協働力の向上に関わる計画			
<ul style="list-style-type: none"> ・分からないことや気になったことは担任や児童に聞く。 ・明るい笑顔であいさつを欠かさない。 ・学校行事や研修会などに積極的に参画し、実習校の教員として協働的に活動する。 			
③①以外のカリキュラム・授業デザイン力の向上に関わる計画			
<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に即した指導案を作成する。 ・学級や学年に合わせた教材研究・作成する。 ・「自分ならどうするか」を念頭に置いて授業を参観し、実践授業に活用する。 			
④①以外の成長発達サポート力の向上に関わる計画			
<ul style="list-style-type: none"> ・集団への意識と個人の自己肯定感を高めたり維持したりするような言葉がけをする。 (個人のできること、得意なこと、好きなことを教師が知り、児童が自覚する。) ・児童個別の「困っていること」「難しいこと」を把握し、支援する。 ・学習場面以外でも「分からないことに気付く」「分からないことを解決しようとする」手順を支援する。 			
指導教員 (主)	廣嶋 徹	指導教員 (副)	原 義彦